

# 私たちがだから できることがある



命のモニュメント

## 第16回 同仁会グループ 医療介護安全大会を開催

今年の医療介護安全大会は、2016年7月16日(土) 耳原総合病院に新しく誕生した地域交流ソンの「みみはらホール」をメイン会場に、2階外来待合を第2会場として役員・友の会会員など479人の参加で開催しました。

開会にあたり、河原林実行委員長から「医療介護安全大会」は、2000年に起こったセラチア院内感染の教訓を風化させない取り組みであること、新病院玄関前に設置された「命のモニュメント」はそのことをいつまでも忘れず医療介護の安全に努める決意の証であることが紹介されました。

### 今年のテーマ

### チームで取り組む 医療介護の安全

今年のテーマは「チームで取り組む医療介護の安全」事故にしないために私たちができること」で、上尾中央総合病院院長補佐・情報管理部長の長谷川剛先生に

「医療安全とチーム医療」と題して講演していただきました。

「医療活動には多くのスタッフや部署が関わっている。各自が専門的知識や技術の研鑽を積み、事故防止の知識を深めることは大切だが、それだけでは事故は防げない。認識・予測した危険性を周囲の人につまく伝えて共有する能力が重要」と、動画を交えて多くの事例を示し、わかりやすく話していただきました。

アンケートからは、「伝達力・質問力・受入力などのコミュニケーション力の大切さ、リスペクト(尊敬・敬意)の重要性など職能として大切なことが学べてよかった」という感想が寄せられ、あらためて医療介護の安全について考える機会となりました。

### 寄り添う看護・介護

### 事業所の枠を超えた 連携を実施

指定報告では「Aさんに寄り添う」とのテーマで、耳原鳳クリニック・耳原訪問看護ステーション



開会のあいさつをする河原林実行委員長

ン、タンポポ薬局、ケアプランセンター深井泉北の4事業所での取り組みが紹介されました。ワクチンの重複接種発覚をきっかけに、Aさんが抱える問題を同仁会グループ内の事業所が連携し、受診方法や服薬管理など一つひとつ見直した結果、安定した在宅生活を実現できた事例です。

「その方の状態や生活に合わせたサポートをする」という思いを共有し、事業所の枠を超えた相互理解と医療・介護連携によって実ったAさんの暮らし。「人権を尊重し、いのちと健康を守る」「医療と介護の連携を強め、安心して住み続けら



メイン会場のみみはらホール



▲第2会場になった2階外来待合

れる」との民医連綱領の実践でもある報告に多くの共感と学びを得ることができました。

### シリーズ 現場からの 視点

その18

毎年夏に民医連・同仁会で継続して取り組んでいる「熱中症調査」、今年も7月～8月にかけて実施しました。調査の中から見えてきた課題を事例を通して紹介します。

ヘルパーステーション事業所から気になる利用者さん(独居・80歳代・要介護2・男性)宅へ熱中症調査を実施しました。

玄関口から尿臭が漂いシーツや布団、床にも失禁した後がみつけられました。ヘルパーが家事援助(洗濯)している間、熱中症調査の項目をお聞きしました。クーラーは設置されていますが使用しておらず、表玄関と裏の窓を開け、暑さをしのいでいます。団地の5階のため風通しがよ

## 熱中症調査からみえてきた課題

く、むしむしする感じはなかったのですが、室温は34度という結果です。

この団地にはベランダが屋上にはありません。訪問介護サービスの決められた時間の中で、屋上まで行って干す時間がない、仕方なく室内に干していますが、洗った物が大量の一つの部屋に電気ストーブを使用し、乾かしているため室温が上昇している可能性があります。

また、冷蔵庫の中にもお茶は入っており、持参したスポーツドリンクを目の前に置きましたが、飲むように促しても、飲まれません。このように熱中症の危険性を自覚されていない中、熱中症のリスクを取るか、清潔な環境を取るか現場では悩んでいます。

ケアマネジャーはじめ、関わるスタッフはやきもきしながら、部屋の温度を下げることや水分摂取を促すなど、気長に呼びかけを続けていますが、週2回の訪問介護・週1回の訪問看護では見守りに限界があります。安全な住まいと見守り、を、行政や民生委員さんなどの協力を得ながら、地域の高齢者を見守る大切さを感じました。

